

# 岡山県感染症週報 2014 年 第 23 週 (6 月 2 日～6 月 8 日)

岡山県は食中毒注意報を発令しました (6 月 10 日)

## ◆2014 年 第 23 週 (6/2～6/8) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 22 週 2 類感染症 結核 3 名 (70 代 男 1 名・女 1 名、80 代 男 1 名)

第 23 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 男)

5 類感染症 急性脳炎 1 名 (40 代 女)

後天性免疫不全症候群 2 名 (30 代 男 1 名、40 代 男 1 名)

### ■定点把握感染症発生状況

○咽頭結膜熱は、県全体で 38 名 (定点あたり 0.70 → 0.74 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 92 名 (定点あたり 1.48 → 1.70 人) の報告があり、前週より増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で 414 名 (定点あたり 10.63 → 7.67 人) の報告があり、前週より減少しました。

【お知らせ】「2013 / 2014 年シーズン 岡山県インフルエンザ発生状況のまとめ」を掲載しました。

1. **咽頭結膜熱**は、県全体で 40 名 (定点あたり 0.70 → 0.74 人) の報告があり、前週とほぼ同数でしたが、過去 10 年間の同時期と比べて多い状態で推移しています。地域別では、美作地域 (2.00 人)、岡山市 (1.21 人) の順で報告数が多くなっています。咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによってみられる小児の急性感染症です。症状は、発熱で発症し、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、目やになどです。予防方法としては、感染者との接触を避けること、流行時にうがいや手洗い、手指の消毒を実施することなどです。
2. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 92 名 (定点あたり 1.48 → 1.70 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比べて、やや多い報告数となっています。地域別では、岡山市 (2.79 人)、倉敷市 (2.18 人) で多くの患者が発生しています。例年、春から夏にかけて報告数のピークが認められています。手洗い、うがいなど一般的な感染予防に努めましょう。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で 414 名 (定点あたり 10.63 → 7.67 人) の報告があり、前週より減少しましたが、ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは「[感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↓	
咽頭結膜熱	→	★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★★
感染性胃腸炎	↘	★★	水痘	↗	
手足口病	↗		伝染性紅斑	↑	
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↑		流行性耳下腺炎	↘	
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↓	
マイコプラズマ肺炎	↓		クラミジア肺炎	↓	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓				

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ : 2 倍以上の減少    ↘ : 1.1～2 倍未満の減少    → : 1.1 未満の増減  
 ↗ : 1.1～2 倍未満の増加    ↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし    ★: 僅か    ★★: 少し    ★★★: やや多い    ★★★★: 多い    ★★★★★: 非常に多い  
 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

## 野山などへ入る際には、マダニに注意してください！

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を引き起こす SFTS ウイルスを保有したマダニが、県内に広く分布している可能性が考えられます。これからの季節は、マダニの活動が活発になります。咬まれないための予防対策をしましょう。

### 【予防のポイント】

- 草むらなどに入るときには、腕・足・首など肌の露出を少なくしましょう。  
首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用。  
シャツの袖口は軍手や手袋の中に。  
ズボンの裾は、靴下に被せるか、長靴の中に。
- 服の上や肌の露出部分に、防虫剤を噴霧や塗布しましょう。
- 草の上に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- 野外活動後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- 脱いだ衣服は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- 野外活動後は、すぐに入浴し、体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。  
入浴やシャワーの時には、マダニが肌に付いていないかチェックしてください。  
マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません。
- ペットにもダニが付かないように、ダニ避け剤などで予防しましょう。

### 【マダニに咬まれたら】

- マダニが皮膚に付いていることに気がついた場合、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。
- その後、2 週間程度は、体調の変化に注意してください。
- 発熱等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。  
その時、野山や草むら、河川敷などに立ち入る機会があったことを伝えてください。

[マダニに注意!（岡山県チラシ）](#)

[マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)

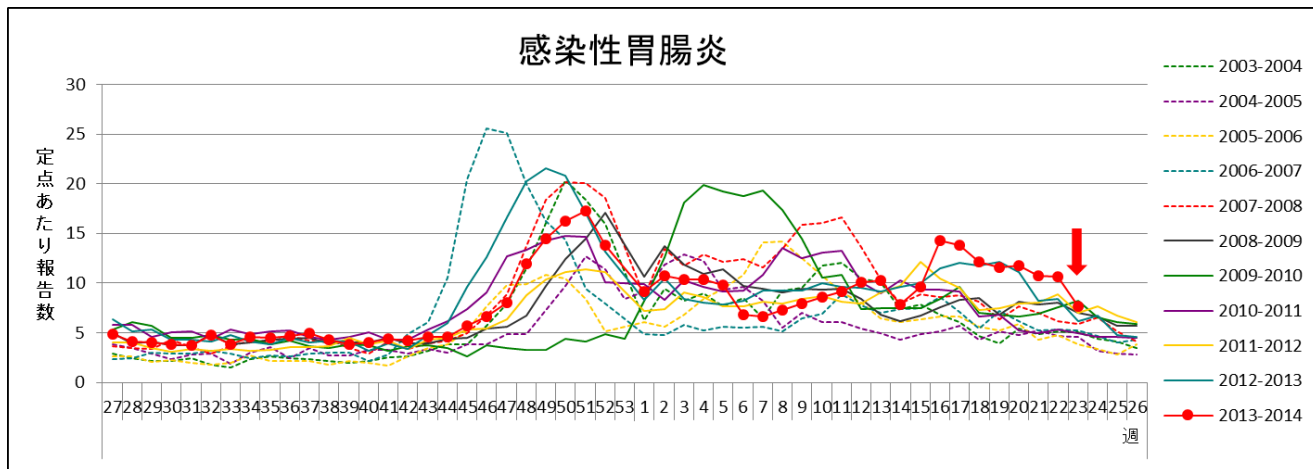
[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）](#)

\*野外にいる吸血性のダニとして、大型のマダニや、小型のツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の他にも、日本紅斑熱やつつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。

# 感染性胃腸炎情報 2014 年 第 23 週 (6 月 2 日 ~ 6 月 8 日)

岡山県は食中毒注意報を発令しました (6 月 10 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 414 名 (定点あたり 10.63 → 7.67 人) の発生がありました (54 定点医療機関報告)。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

**感染性胃腸炎**は、県全体で 414 名 (定点あたり 10.63 → 7.67 人) の発生があり、前週より減少しました。

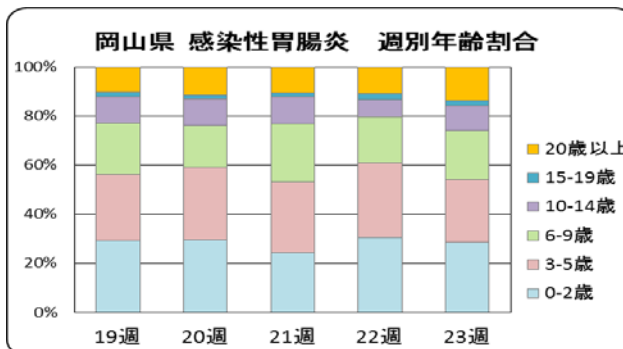
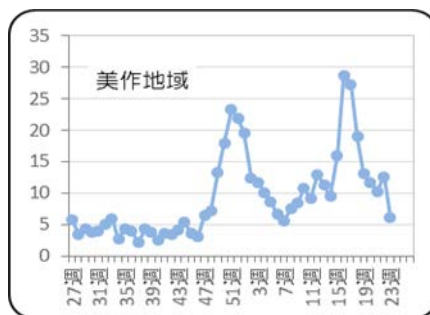
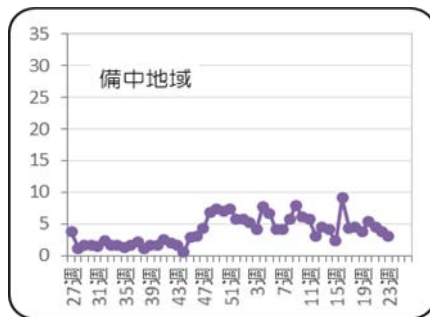
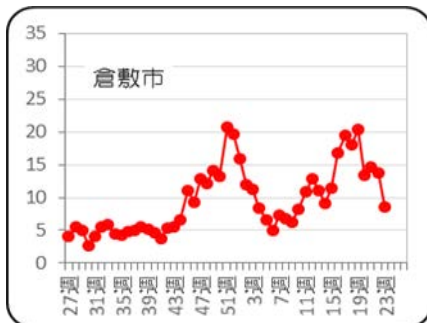
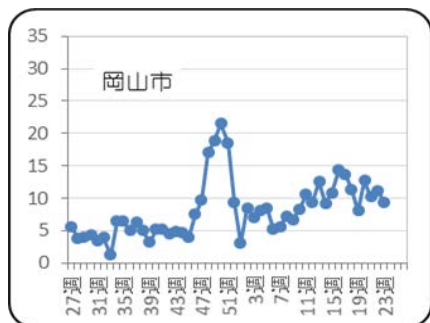
例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や食事、調理の前には、石けんと流水で念入りに手を洗うなど、感染予防に努めてください。食中毒の原因となる菌は、食べ物に付いても味やにおいは変わりません。味やにおいを過信するのは止めましょう。

[食中毒に関する情報 \(厚生労働省\)](#)

[食中毒注意報を発令しました! \(岡山県\)](#)

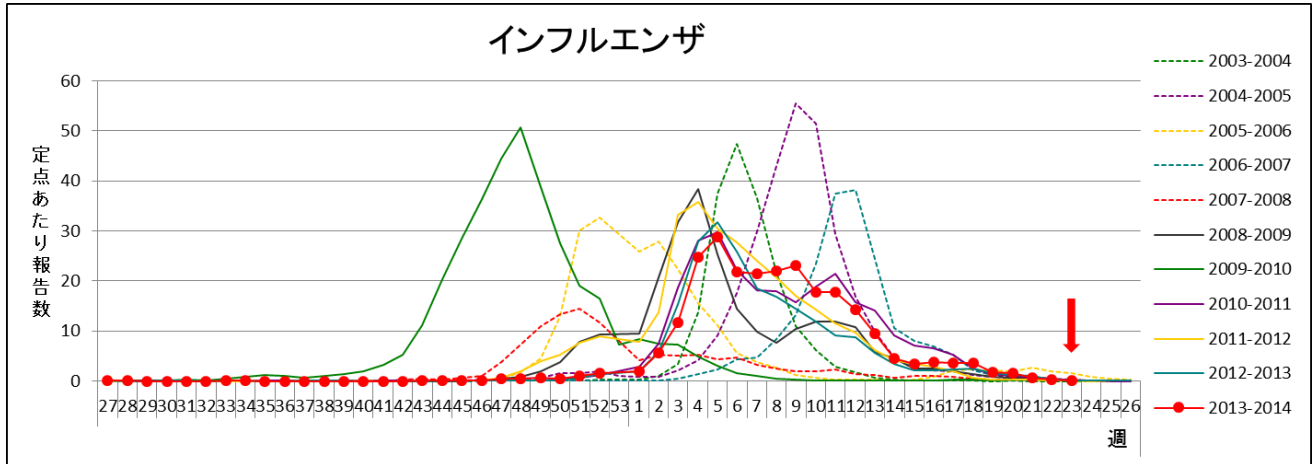
## ◆地域別・年齢別発生状況

地域別では、真庭地域 (9.50 人)、岡山市 (9.36 人)、備前地域 (8.90 人)の順で定点あたり報告数が多くなりました。年齢別割合では、5 歳以下の乳幼児が全体の 54% を占めています。



# 岡山県 インフルエンザ発生状況

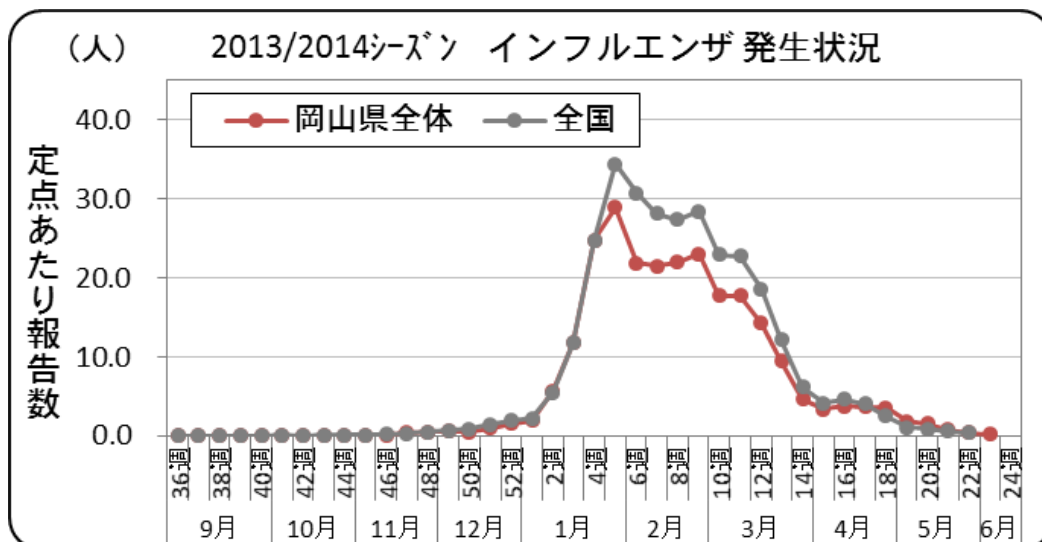
( 2013/2014 年シーズン流行のまとめ )



岡山県における 2013 / 2014 年シーズン (36 週～23 週・2013/ 9/ 2～2014/ 6/ 8 まで)、県内定点医療機関 84 定点から報告されたインフルエンザの発生動向をまとめました。

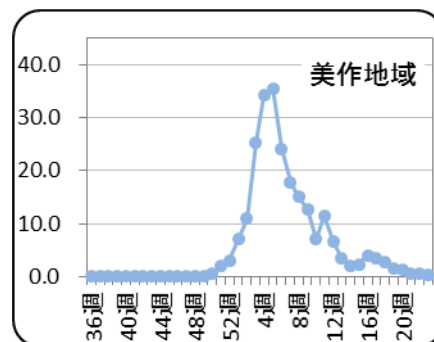
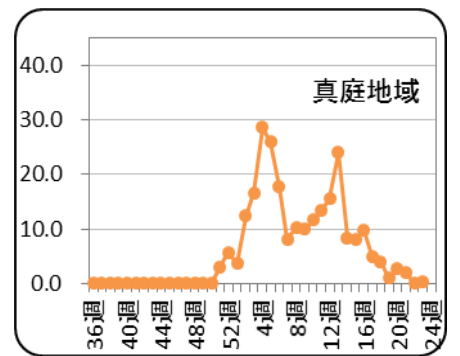
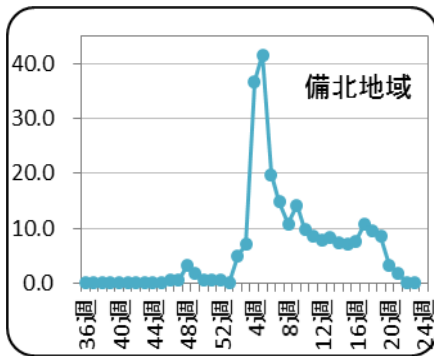
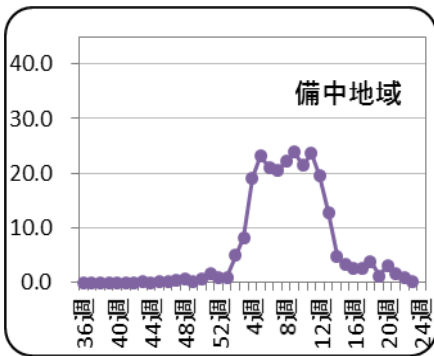
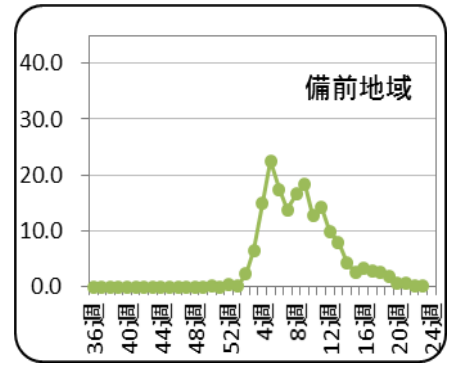
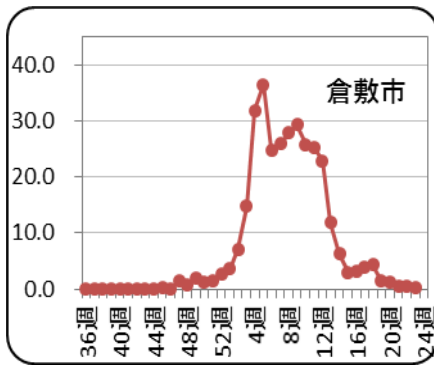
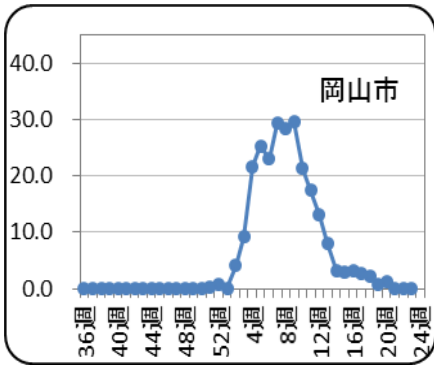
岡山県では、2013 年 第 43 週 (10/21～10/27) に今シーズン初めての患者が報告され、第 52 週 (12/23～12/29) に定点あたり報告数 1.53 人となり、流行期に入りました。以降、急速に拡大し、2014 年 第 2 週 (1/6～1/12) に定点あたり 5.66 人となり、5 人を越えたため、岡山県は 1 月 16 日「インフルエンザ注意報」を発令しました。第 5 週 (1/27～2/2) には定点あたり 28.89 人となり、今シーズンのピークを迎え、第 6 週 (2/3～2/9) に定点あたり 21.84 人まで減少しました。しかし、その後しばらくほぼ横ばいで推移し、第 10 週 (3/3～3/9) から再び徐々に減少しました。第 21 週 (5/19～5/25) 0.73 人、第 22 週 (5/26～6/1) 0.36 人と、2 週連続して定点あたり 1 人を下まわりました。そのため、岡山県に発令されていたインフルエンザ注意報は 6 月 5 日をもって解除となり、今シーズンのインフルエンザの流行は終息したと考えられます。

全国では、2013 年 第 51 週 (12/16～12/22) に定点あたり報告数が 1.39 人となり、流行期に入りました。その後、2014 年 第 5 週 (1/27～2/2) に定点あたり 34.44 人となり、流行のピークを迎えました。以降、岡山県とほぼ同様に推移し、第 21 週 (5/19～5/25) には定点あたり 0.56 人となり、沖縄県 (7.64 人) 以外の全国の保健所地域で注意報レベルを下まわりました。



# 1. 地域別発生状況

地域別発生状況は、2013年 第45週（11/4～11/10）頃から、倉敷市・備中地域で患者が報告され始めました。流行初期は倉敷市、真庭地域、美作地域を中心に拡大し、やがて2014年第2週（1/6～1/12）には全地域で流行開始の指標である定点あたり患者数1人を上まわり、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加をつづけ、岡山県のピーク時には備北地域（41.60人）、倉敷市（36.44人）、美作地域（35.50人）で、患者が多く報告されました。倉敷市、備前地域、備北地域、真庭地域、美作地域では、第4～5週（1/20～2/2）を、また岡山市、備中地域では2014年第9週（1/24～3/2）にピークに達し、以後は増減を繰り返しながら減少しました。第22週（5/26～6/1）、全ての地域で定点あたり1人以下になり、今シーズンの流行は終息したと考えられます。



※感染症発生動向調査は、岡山県を7のブロックに分けて、情報収集しています。

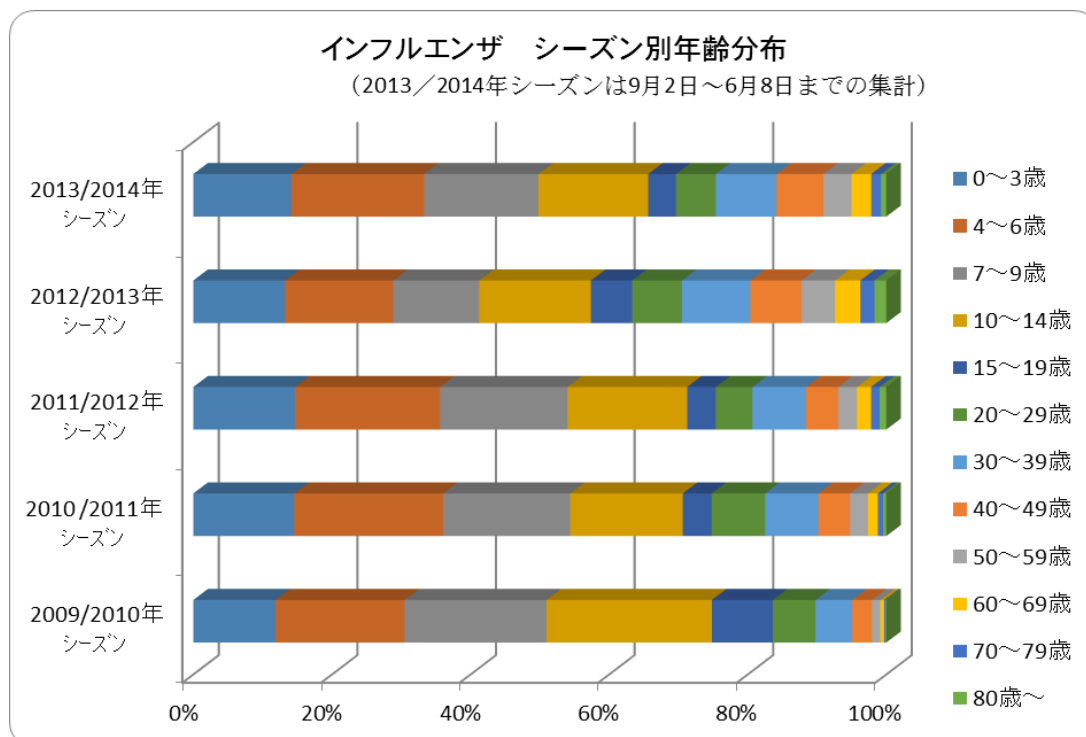
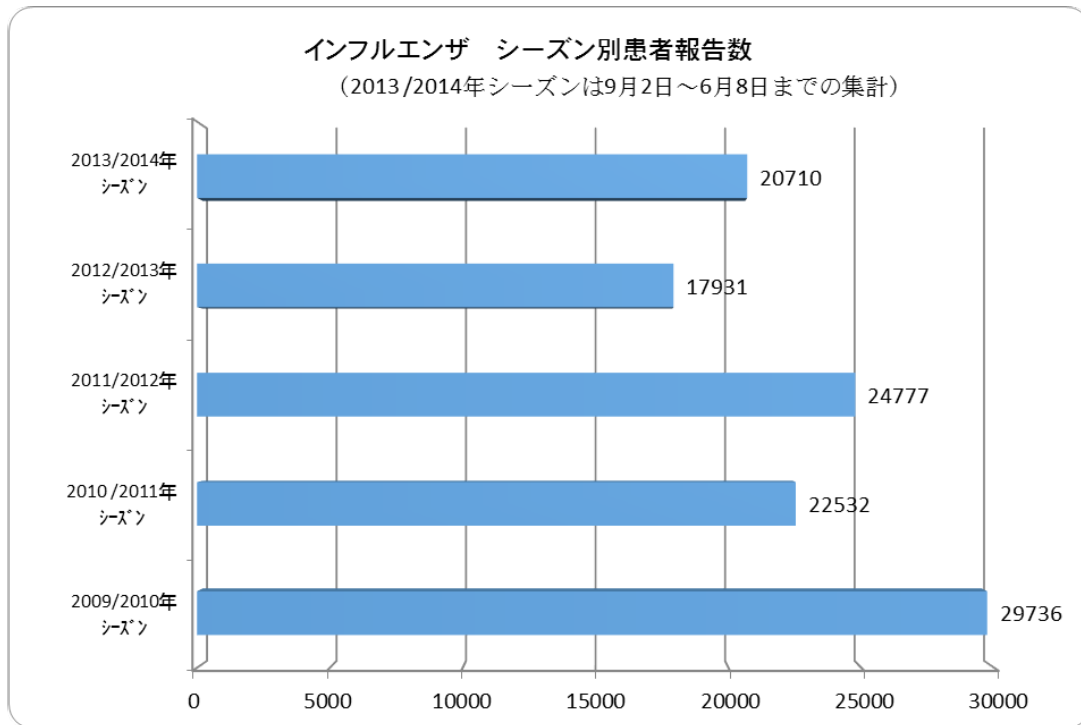


- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域（オレンジ）
- ・備中地域（黄）
- ・備北地域（緑）
- ・真庭地域（ピンク）
- ・美作地域（青）

## 2. 年齢別発生状況

2013/2014年シーズン（2013年9月2日～6月8日）、県内の患者報告数は20,710人となり、過去5年間では、2番目に患者発生の少ないシーズンとなりました。

年齢分布は、4～6歳が最も多く（19.2%）、つづいて7～9歳（16.5%）、10～14歳（15.9%）の順でした。昨シーズンと比較して4～9歳の年齢層の割合が増加し、15歳以上の各年齢層の割合が減少しました。



※インフルエンザは、9月から翌年8月までを1シーズンとして集計しています。ただし、2009/2010年シーズンは新型インフルエンザの流行のため、7月から翌年6月の間を集計しています。

### 3. インフルエンザウイルス検出状況

2013/2014年シーズン（2013年9月2日～6月8日）における岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス122株の検出割合は、AH1pdm09型が48株（39%）と最も多く、AH3型が44株（36%）、B型が30株（25%）（B型のうち山形系統24株、ビクトリア系統6株）でした。AH1pdm09型は、2011/2012年シーズン、2012/2013年シーズンには検出されていませんでしたが、今シーズンは検出最多となりました。

今シーズン検出されたインフルエンザウイルスAH1pdm09型のうち、43株について薬剤耐性マーカー遺伝子の検査を行ったところ、1株から耐性マーカー遺伝子が検出されました。現在、その1株について確認のため、国立感染症研究所で薬剤感受性試験を行っているところです。

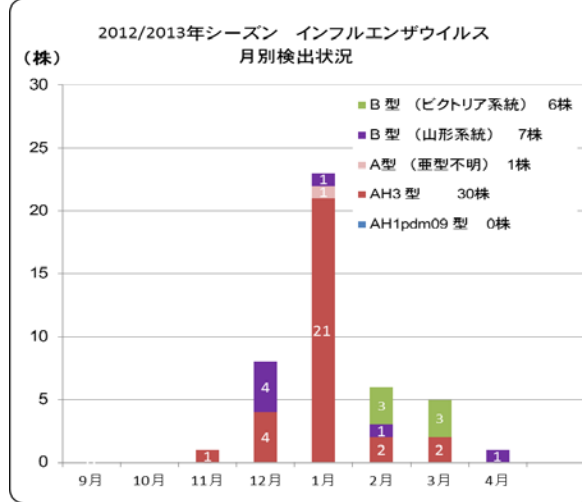
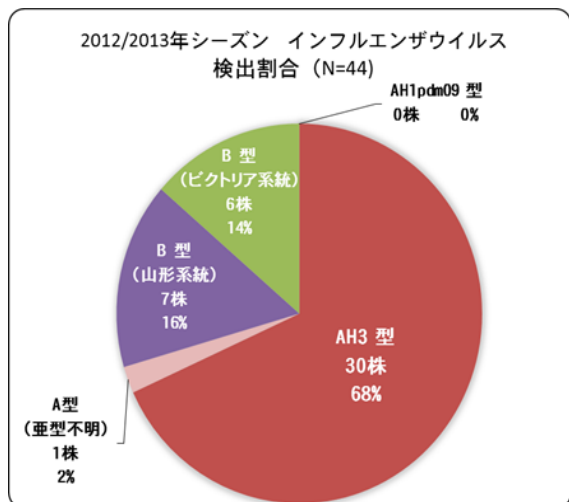
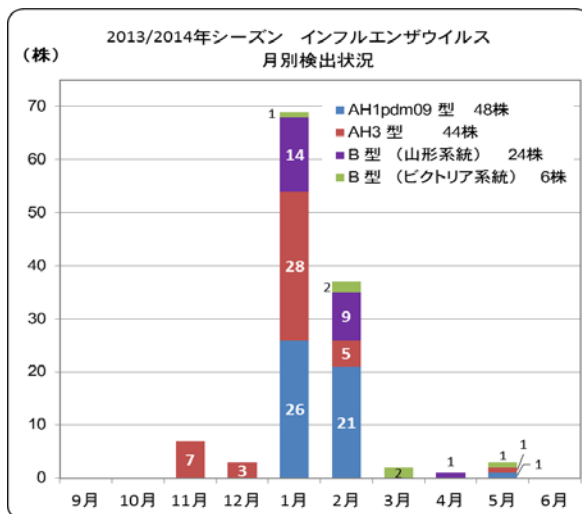
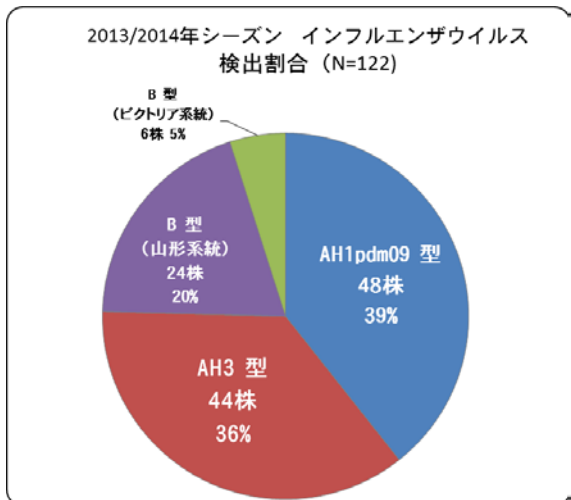
（2014年8月1日追記：国立感染症研究所において薬剤感受性試験を行った結果、オセルタミビル（タミフル）及びペラミビル（ラピアクタ）に対して耐性を示すことが確認されました。一方、ザナミビル（リレンザ）及びラニナミビル（イナビル）に対しては感受性を保持していました。）

月別検出状況は、11月及び12月にはAH3型が検出され、1月にはAH3型、AH1pdm09型、B型の順で検出割合が多くなりました。その後、2月はAH1pdm09型の割合が多くなり、3月以降は少数ながら、B型の割合が多くなりました。

全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型3363株（43%）、B型2785株（36%）（B型のうち山形系統1810株、ビクトリア系統692株、系統不明が283株）、AH3型1660株（21%）と報告されています。累計ではAH1pdm09型が最も多く検出されましたが、10週（3/3～3/9）以降は、B型、AH1pdm09型の順で検出割合が多くなりました。（2014年6月9日現在）

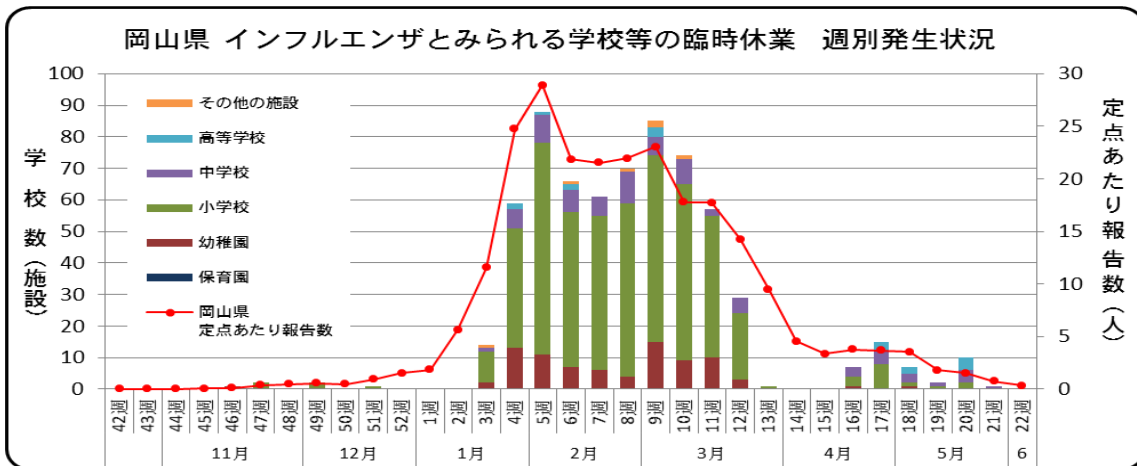
[インフルエンザウイルス分離検出状況 国立感染症研究所](#)

#### 【2013/2014年シーズン】



【2012 / 2013 年シーズン】

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数



今シーズン 2013 のインフルエンザとみられる臨時休業は 652 施設で、昨シーズン (578 施設) より増加しました。施設別では、幼稚園 83 施設、小学校 470 施設、中学校 76 施設、高等学校 17 施設、その他 6 施設でした。初発は 2013 年 11 月 13 日 (46 週) で、昨シーズン (11 月 6 日) より遅い報告となり、今シーズンのピークには 1 週間に 88 施設の報告がありました。

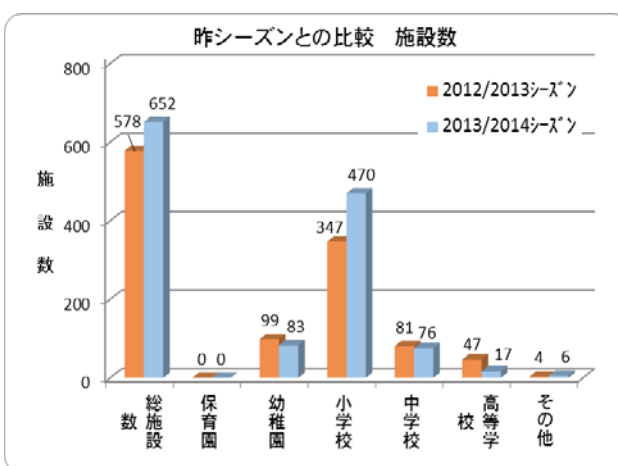
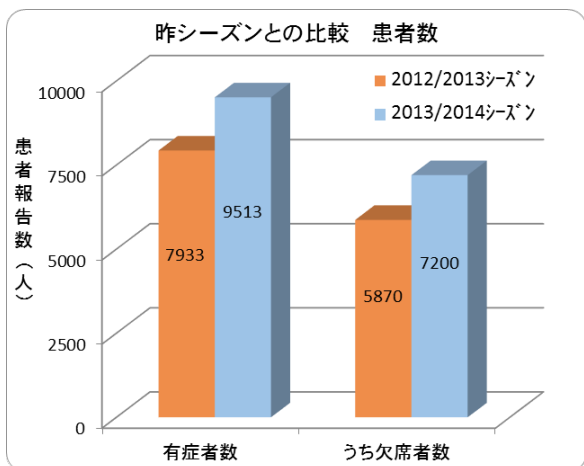
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
<b>岡山県全体</b>	<b>9513</b>	<b>7200</b>	<b>652</b>	<b>18</b>	<b>181</b>	<b>453</b>	<b>H 24. 11. 6</b>
岡山市	3874	2811	233	3	35	195	H24. 11. 6
倉敷市	1621	1289	117	1	22	94	H25. 1. 15
備前地域	766	623	69	1	35	33	H25. 1. 15
備中地域	1344	1040	99	0	25	74	H24. 12. 12
備北地域	347	223	20	6	9	5	H25. 1. 21
真庭地域	160	127	17	0	12	5	H25. 1. 21
美作地域	1401	1087	97	7	43	47	H25. 1. 15

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳 累計：652 施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	—	83	470	76	17	6





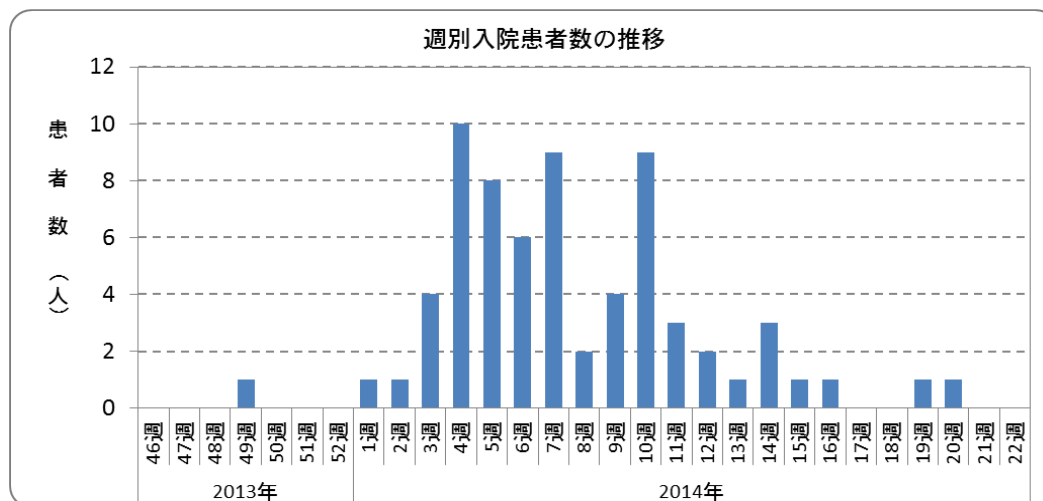
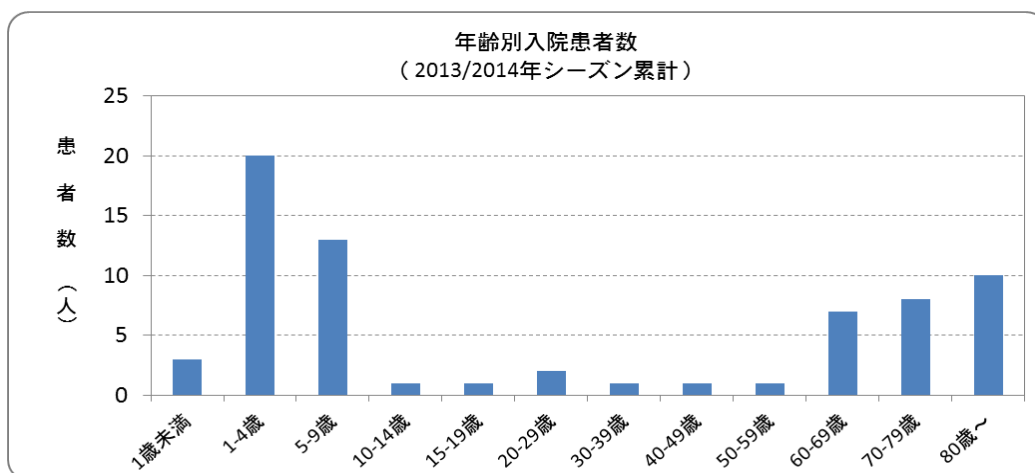
### 5. インフルエンザによる入院患者報告数( 県内基幹定点 5 医療機関による報告 )

今シーズンにおけるインフルエンザによる入院患者数は、68 名であり、昨シーズン (99 名) より減少しました。年齢別では9歳以下 (53%) と、60歳以上 (37%) が多くを占めました。週別では、第4週に入院患者数が最も多くなりました。

【2013 / 2014 年シーズンにインフルエンザにより入院した患者の累計数】

年 齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	20	13	1	1	2	1	1	1	7	8	10	68
ICU入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査 (予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査 (予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査 (予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	9	55

\* 重複あり



保健所別報告患者数 2014年 23週 (2014/06/02～2014/06/08)

2014年6月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	15	0.18	1	0.05	4	0.25	3	0.20	2	0.17	-	-	1	0.33	4	0.40
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	40	0.74	17	1.21	2	0.18	4	0.40	5	0.71	-	-	-	-	12	2.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	92	1.70	39	2.79	24	2.18	11	1.10	5	0.71	2	0.50	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	414	7.67	131	9.36	94	8.55	89	8.90	22	3.14	22	5.50	19	9.50	37	6.17
水痘	66	1.22	33	2.36	9	0.82	6	0.60	9	1.29	-	-	-	-	9	1.50
手足口病	6	0.11	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
伝染性紅斑	4	0.07	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	32	0.59	19	1.36	6	0.55	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	24	0.44	12	0.86	4	0.36	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	4	0.07	1	0.07	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	13	1.08	7	1.40	2	0.50	-	-	4	4.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 23週 (2014/06/02～2014/06/08)

2014年6月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	15	0.18	1	0.05	4	0.25	3	0.20	2	0.17	-	-	1	0.33	4	0.40
咽頭結膜熱	40	0.74	17	1.21	2	0.18	4	0.40	5	0.71	-	-	-	-	12	2.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	92	1.70	39	2.79	24	2.18	11	1.10	5	0.71	2	0.50	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	414	7.67	131	9.36	94	8.55	89	8.90	22	3.14	22	5.50	19	9.50	37	6.17
水痘	66	1.22	33	2.36	9	0.82	6	0.60	9	1.29	-	-	-	-	9	1.50
手足口病	6	0.11	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
伝染性紅斑	4	0.07	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	24	0.44	12	0.86	4	0.36	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	4	0.07	1	0.07	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	13	1.08	7	1.40	2	0.50	-	-	4	4.00	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2014年 第23週 2014/06/02～2014/06/08 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	15	-	1	1	-	-	1	-	2	-	2	-	2	3	1	-	1	-	-	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	40	-	4	8	9	4	5	4	3	-	-	1	-	2	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	92	-	-	11	9	14	14	12	9	3	4	11	1	4	
感染性胃腸炎	414	6	34	50	28	36	41	29	22	24	14	22	43	8	57
水痘	66	2	1	13	12	8	11	7	4	4	1	-	3	-	-
手足口病	6	-	1	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	4	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	32	-	18	13	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	24	-	1	5	4	3	6	3	-	1	1	-	-	-	
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	

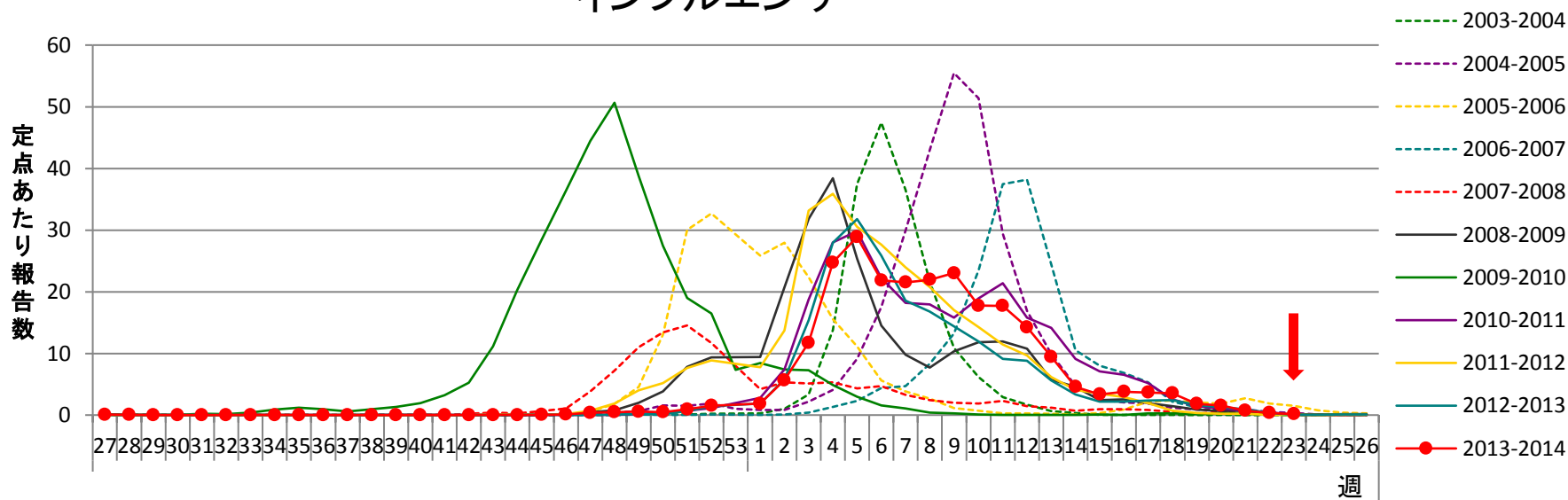
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	13	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	2	4	3	-	-	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

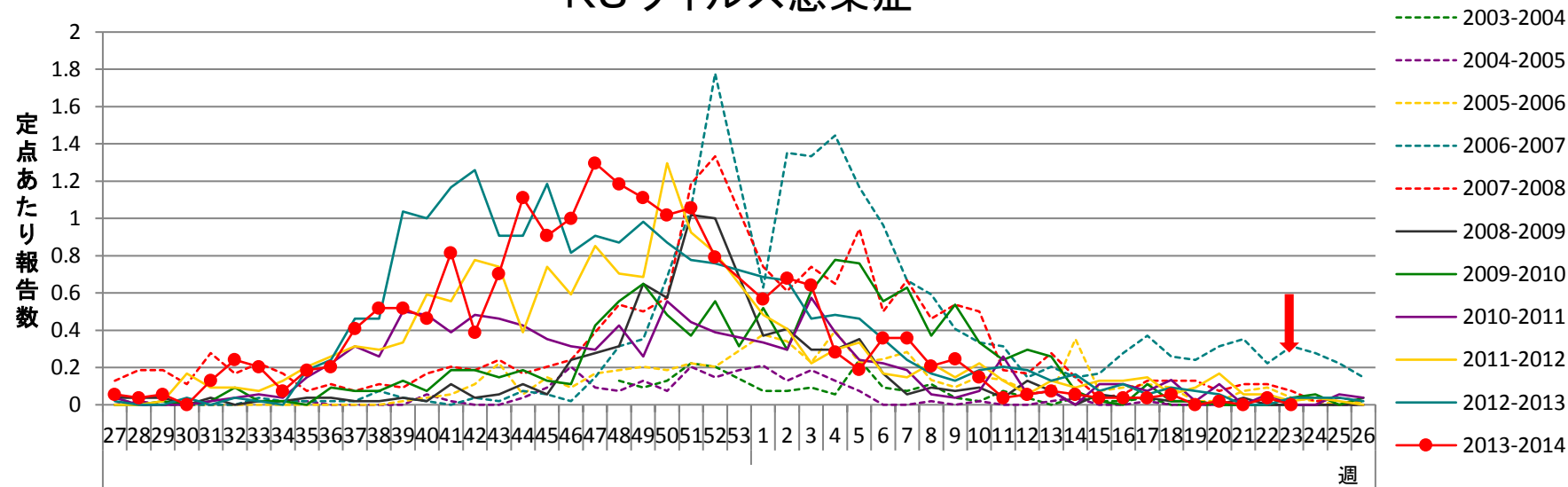
( - : 0 )



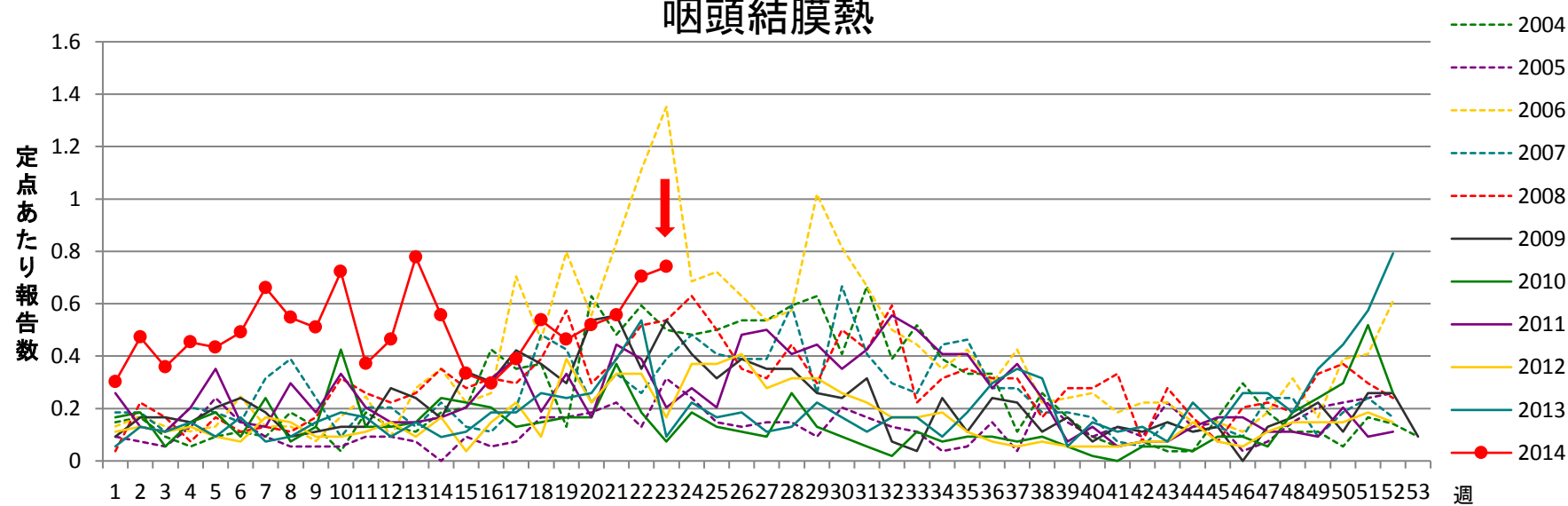
### インフルエンザ



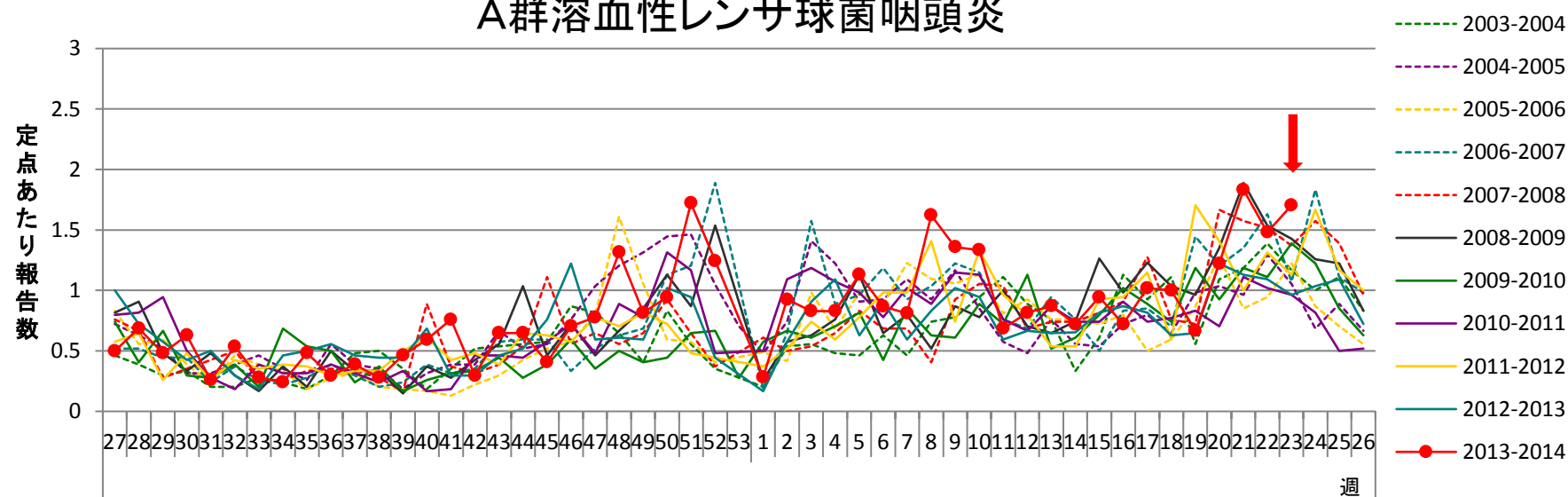
### RSウイルス感染症



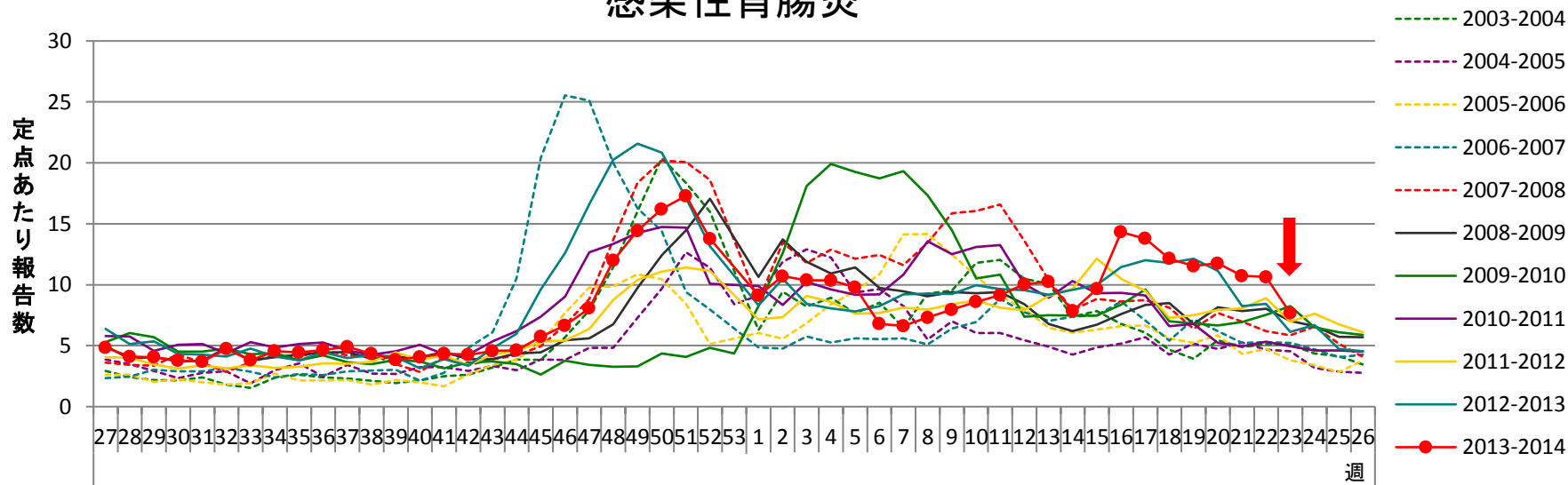
### 咽頭結膜熱



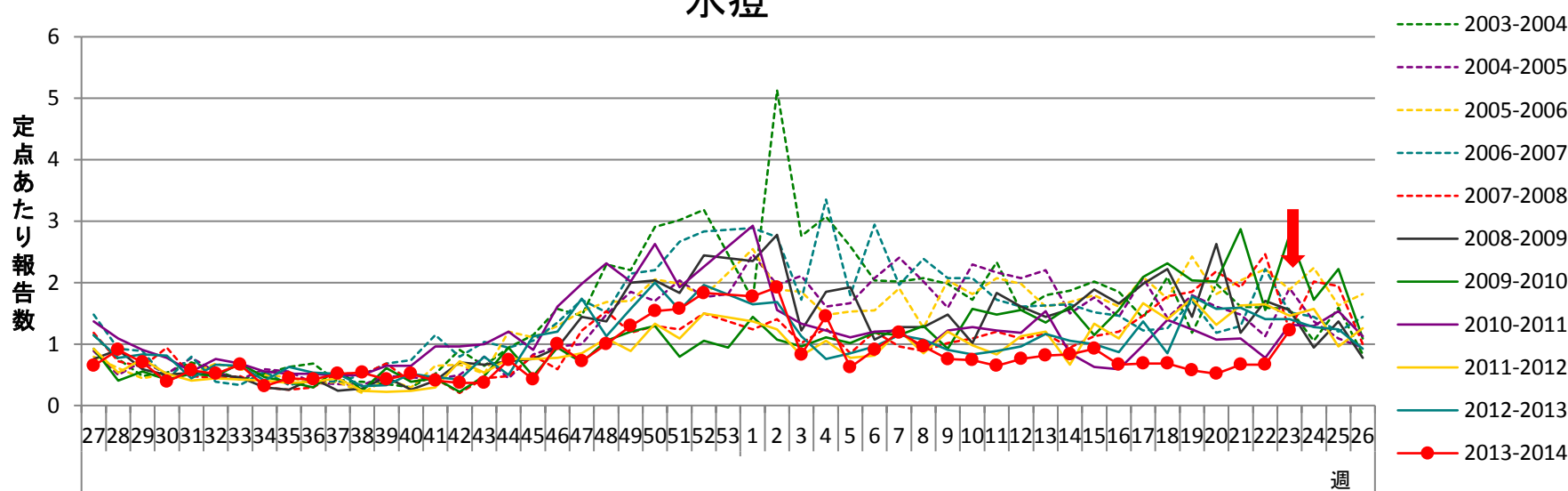
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



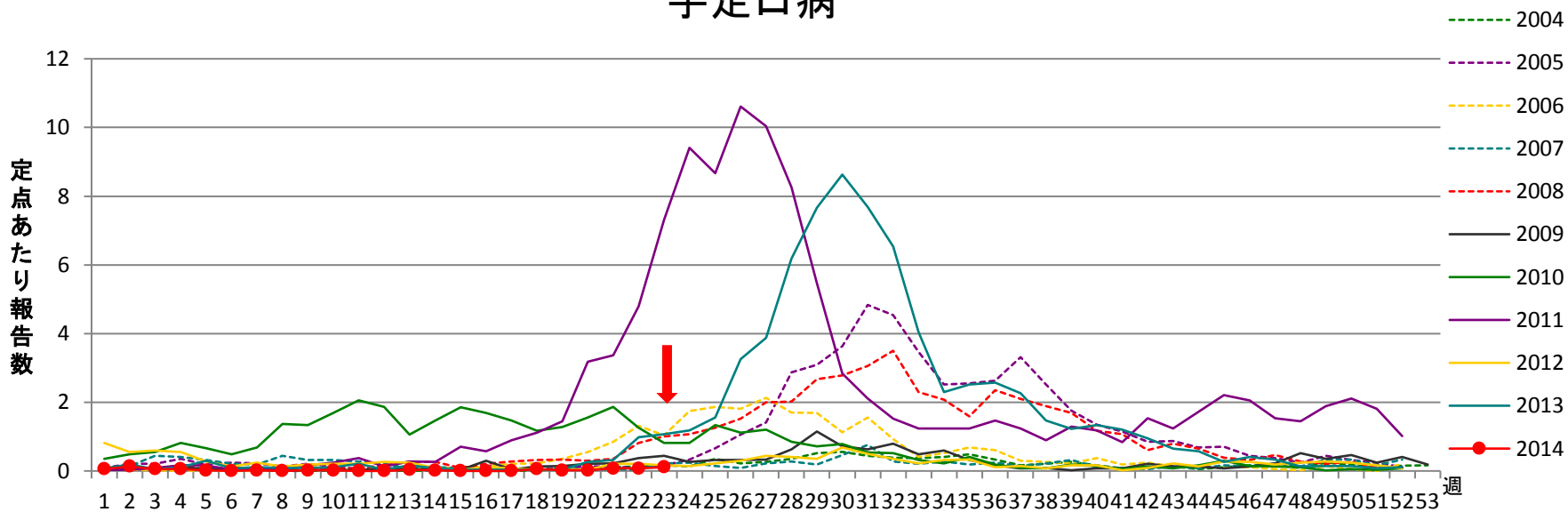
### 感染性胃腸炎



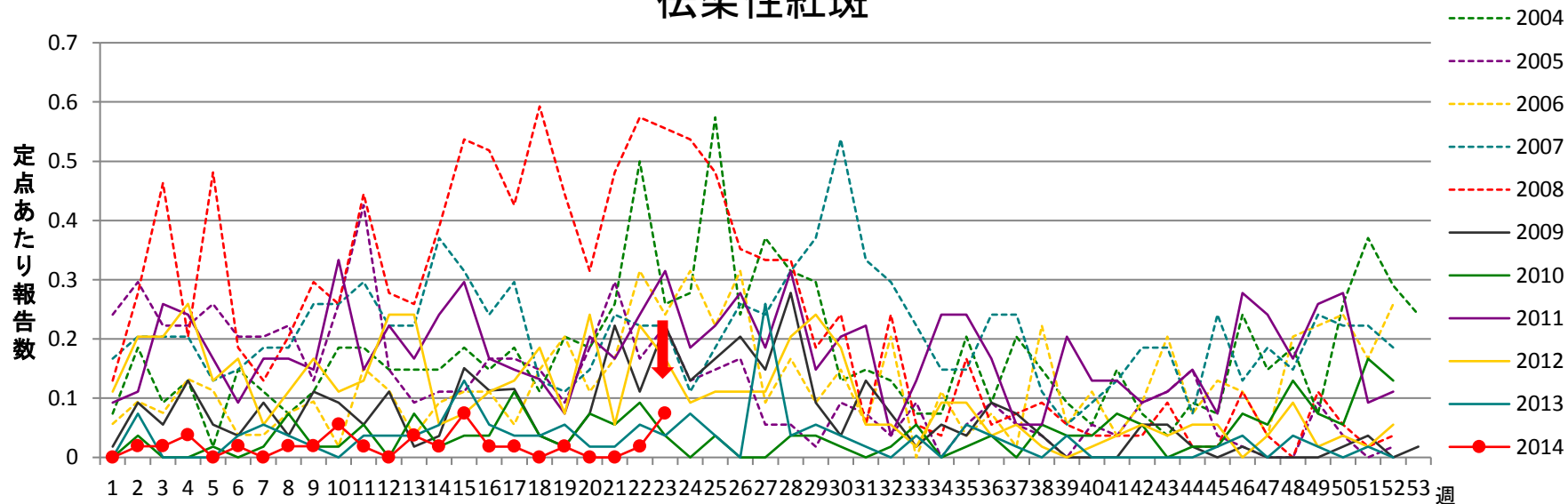
### 水痘



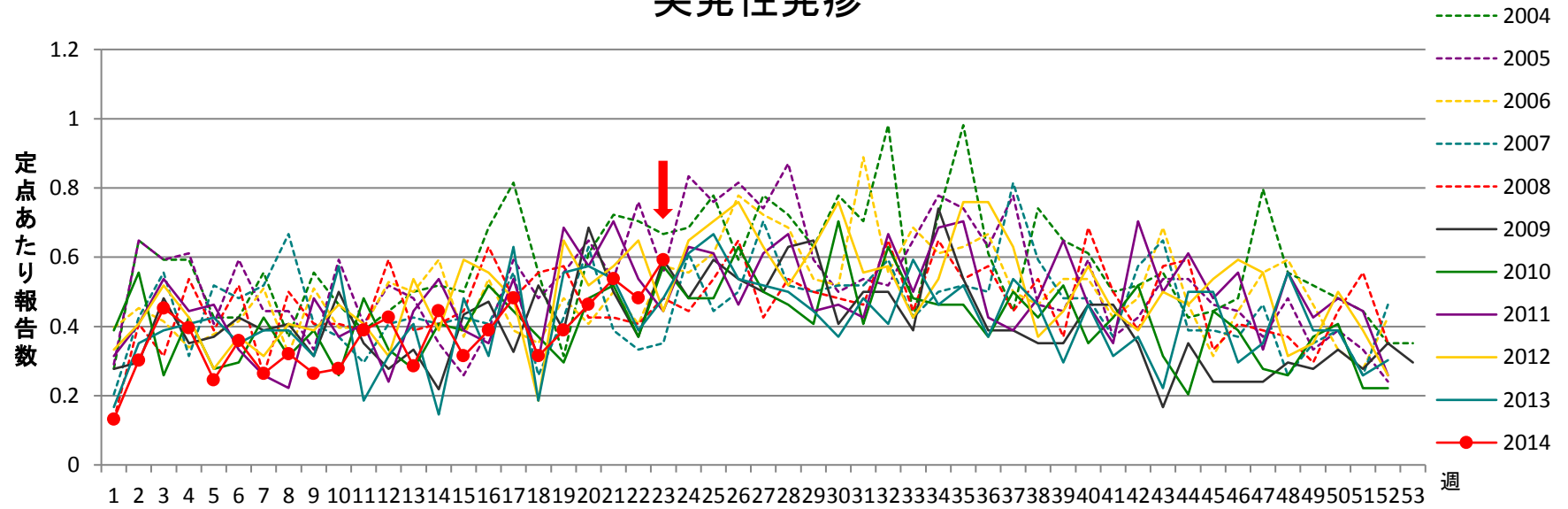
### 手足口病



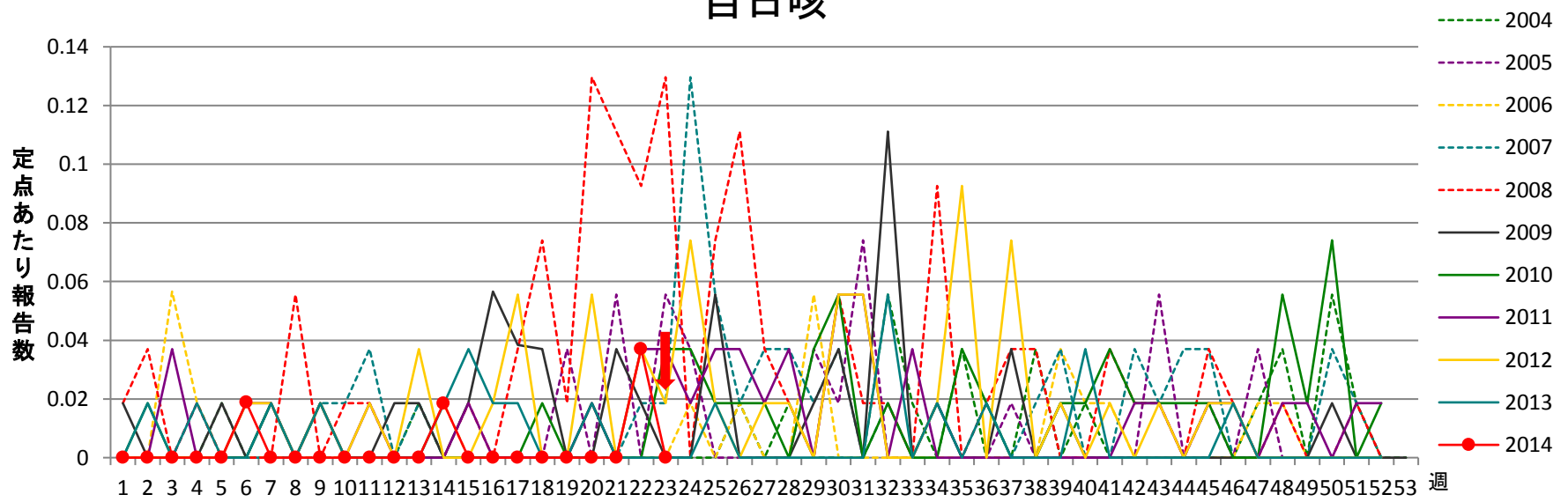
### 伝染性紅斑



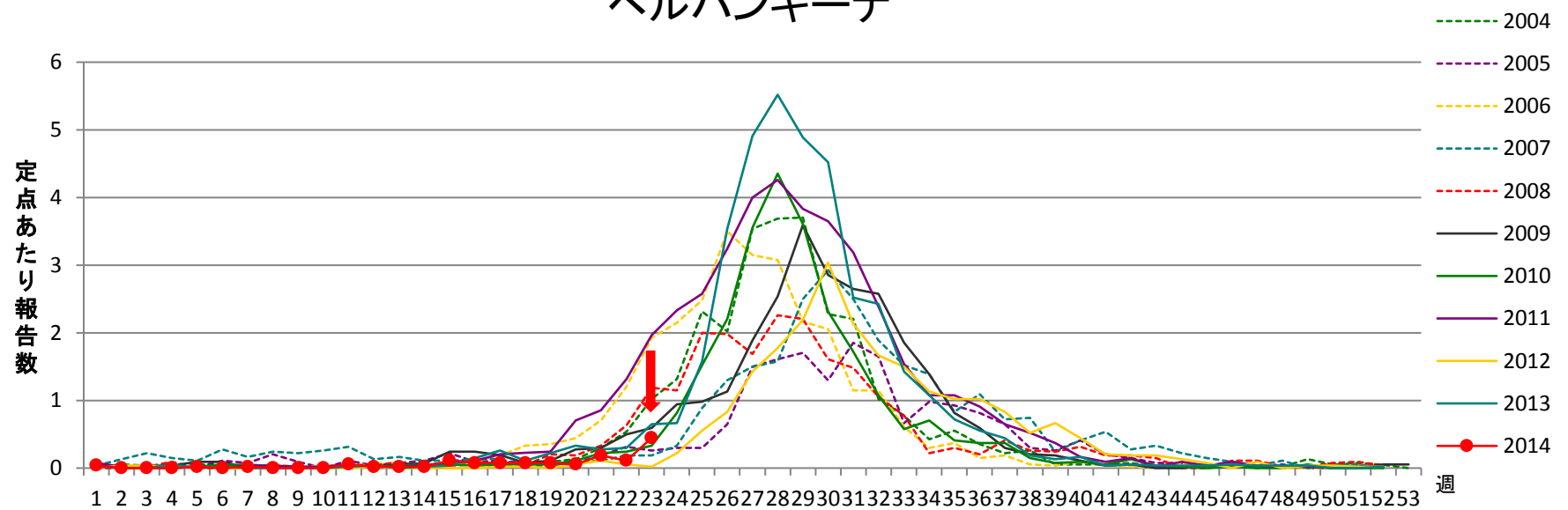
### 突発性発疹



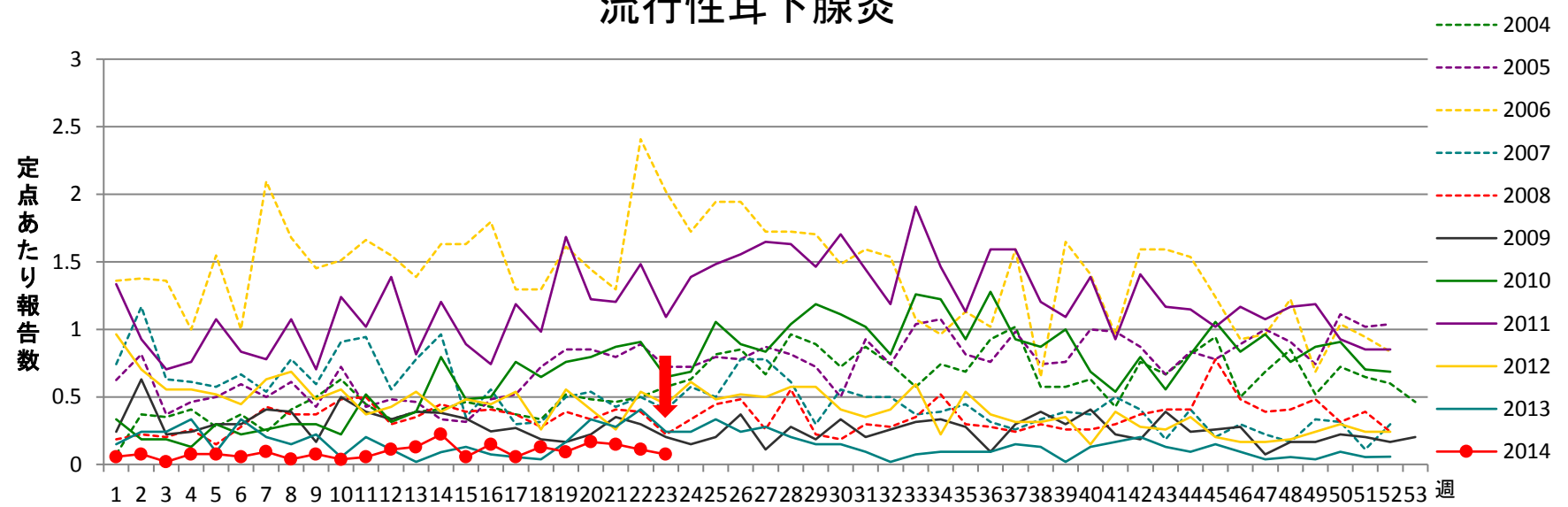
### 百日咳



### ヘルパンギーナ

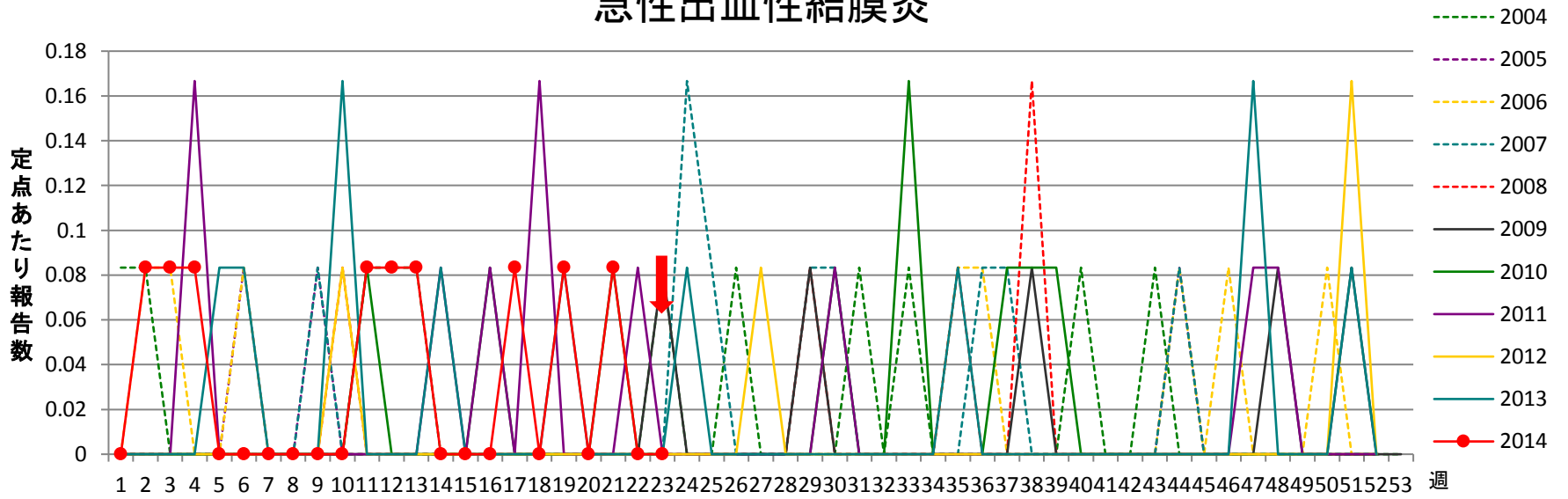


### 流行性耳下腺炎

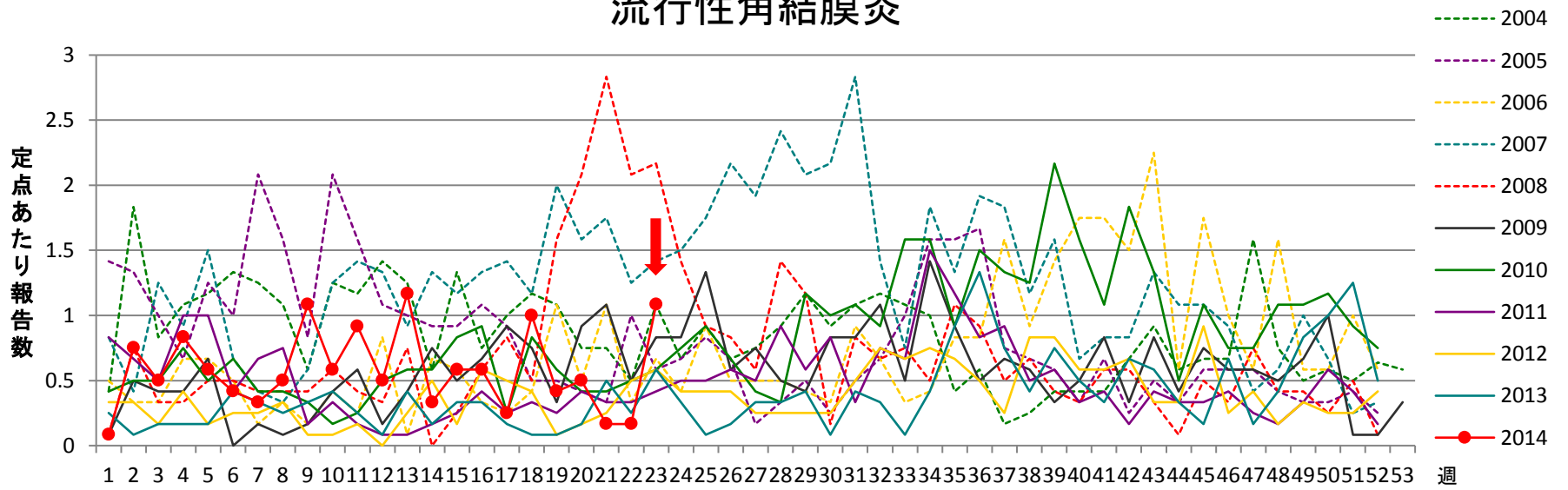




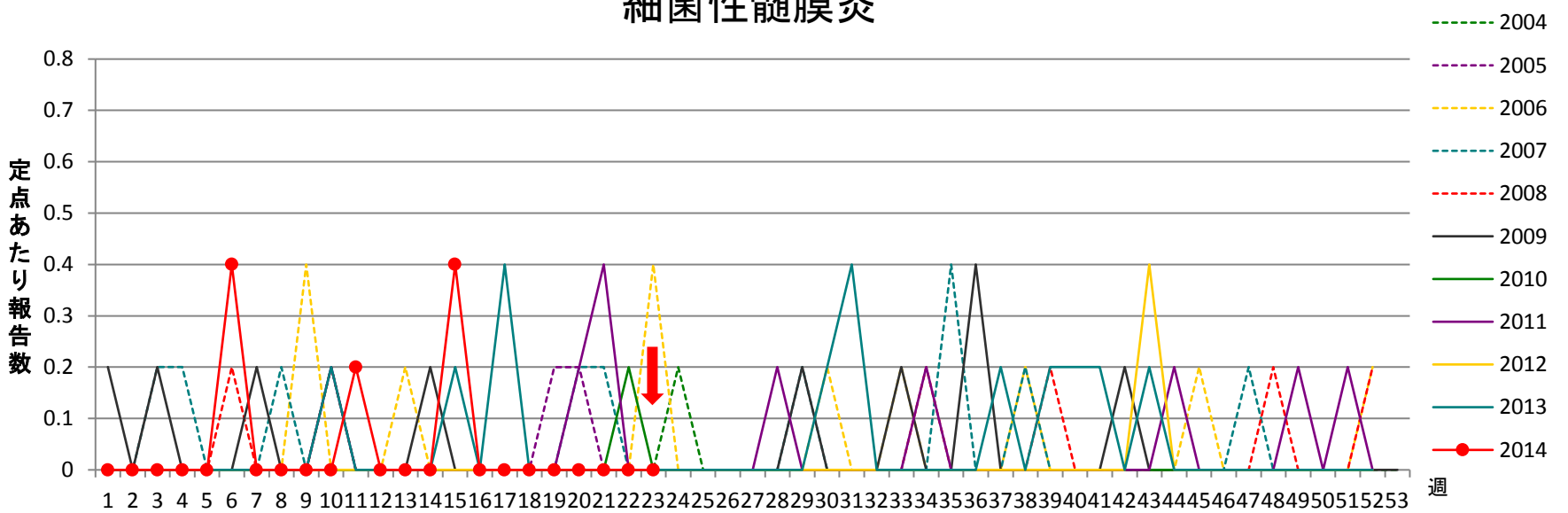
### 急性出血性結膜炎



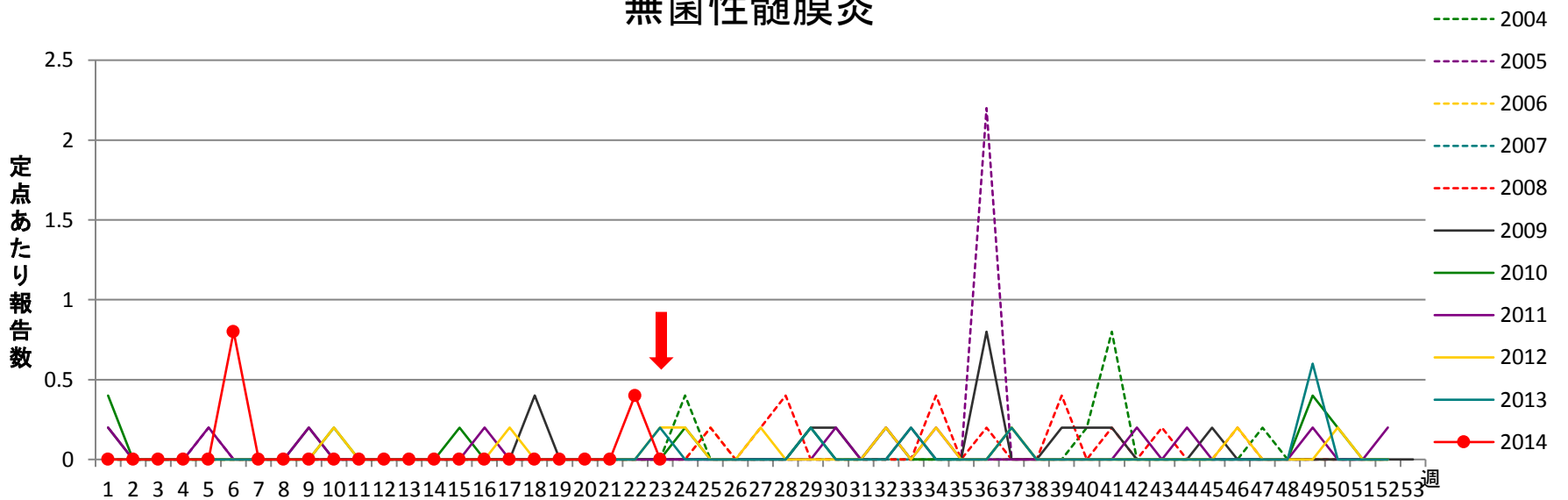
### 流行性角結膜炎



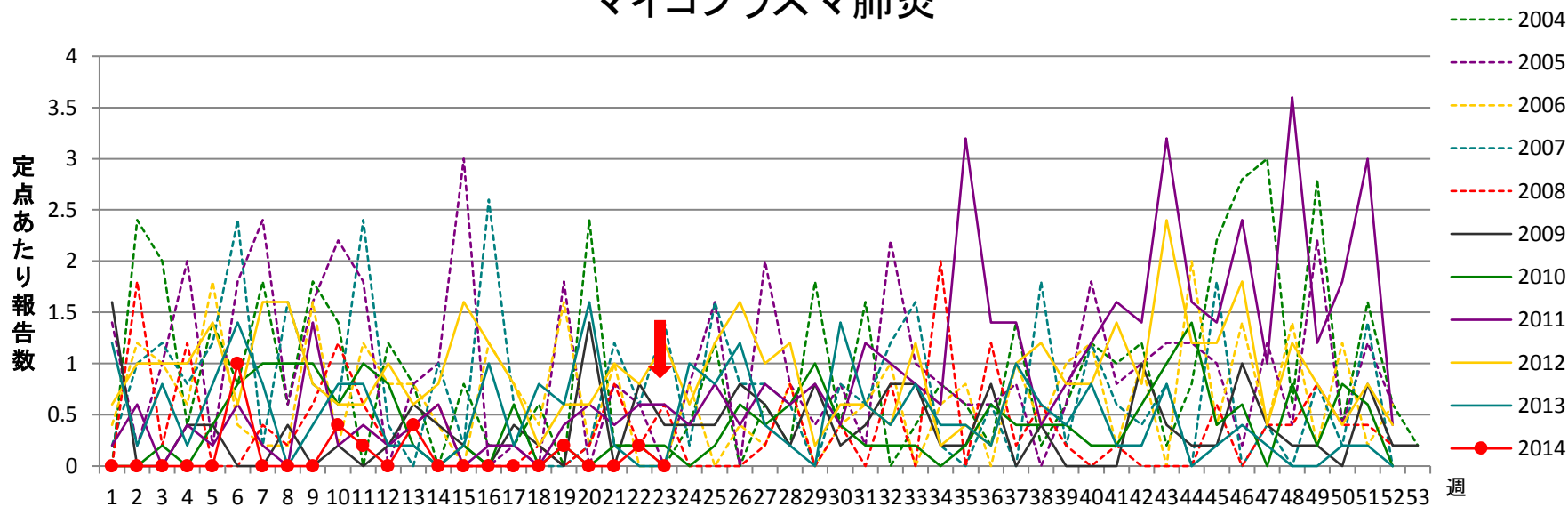
### 細菌性髄膜炎



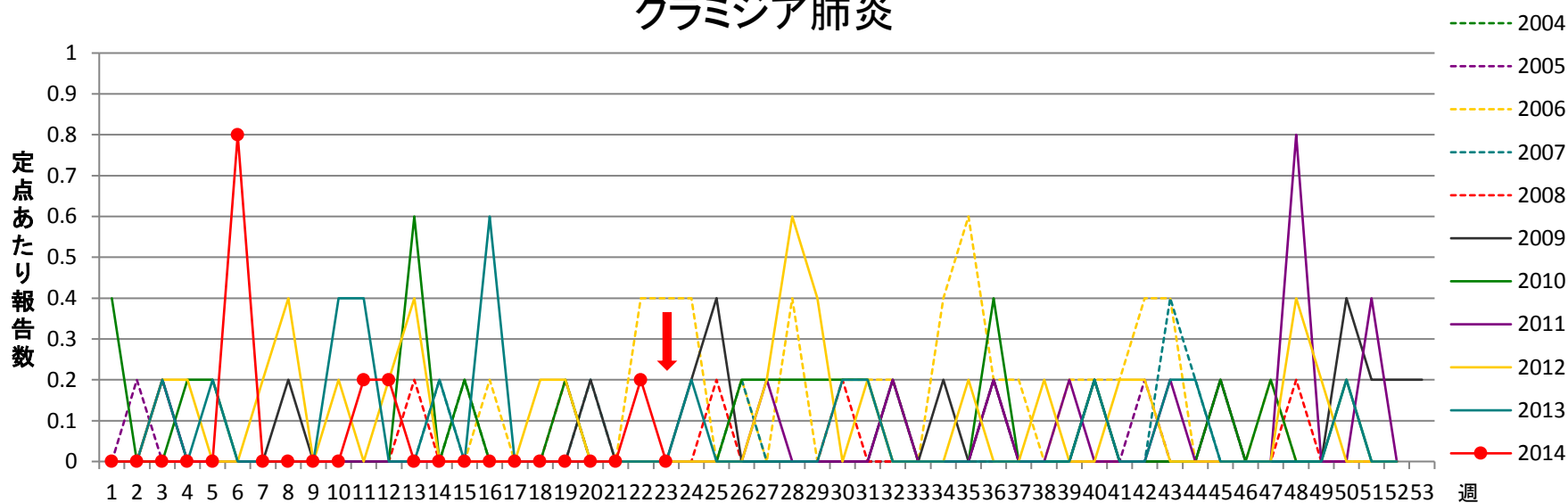
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

